

令和4年(2022年)6月1日発行

学業奨励奨学金、大川陽康奨学金認定式

入学後の成績で給付される独自の奨学金

全学生の手本となる活躍を期待



建築学部の認定者と成田学長

本年度の学業奨励奨学金および大川陽康奨学金の認定証授与式が4月18日、多目的講義棟1004号室にて執り行われ、大学院生と学部生、136名に認定書が授与された。

学業奨励奨学金は新2~4学年の学業成績優秀者を対象とした給付型奨学金である。昨年度1年間の成績が特に優秀であったエクセレント・スチューデント(E・S)に年額50万円、それに準ずるリマーカー・スチューデント(R・S)に年額20万円が授業料減免の形で給付される。今年度の3学部合わせた学年あたりの認定者数は昨年と同様、E・Sが12名、R・Sが25名となっている。

おいて長年に渡り学生諸君の励みになるものと続けられてきた制度である。今回認定された諸君は、勉学のみなならず、日頃の行動も含めてさらに精進し、次年度以降も続けて認定されるよう努力してほしい。また、認定された自覚と共に周囲の学生の手本となつてほしい」と主導的役割を期待した。

成田健一学長は告辞で「この奨学金は入学後の成績によって認定されるもので、本学に

2023年度入試情報

総合型選抜を拡充

2023年度入試の主な変更点は以下のとおり(詳細は受験ガイド、各募集要項を参照)。

◆特別選抜(単願)

「特別選抜入試」から「特別選抜(単願)」に名称変更。

◆特別選抜(併願)

専門高校入試(S工業科)を廃止し、特別選抜(併願)を新設。普通科や工業科といった高等学校の課程にかかわらず受験が可能。合格発表が早くなるように、一層努力されることを期待する」と激励があった。

◆学校推薦型選抜(指定校)

一般推薦入試(指定校)および専門高校入試(A工業科)を統合。面接に

おける基礎学力を把握するための質疑・応答の範囲は、数学I、数学A、物理基礎または化学基礎。ただし、課題研究レポートを提出した場合は、課題研究への取り組みなどについて質疑・応答。

◆総合型選抜(課題実践型)

「総合型選抜入試」の名称を「総合型選抜(課題実践型)」に名称変更。

◆総合型選抜(体験講義型)の新設

45分の体験講義の理解度(ワークシートに解答)、書類審査(調査書、志望理由書)、面接による評価。

◆入試名称の一部変更

「一般選抜入試」「一般選抜入試英語外部試験利用」「共通テスト利用入試」の名称から「入試」の文言を削除し、それぞれ「一般選抜」「一般選抜英語外部試験利用」「共通テスト利用」に変更。

◆新型コロナウイルス対策

昨年度に引き続き、入試当日の検温、マスクの着用、手指のアルコール消毒等の感染拡大防止策に協力をお願いする。

◆大学案内などの資料

「2023大学案内」など、新しい冊子をご希望の方は入試室まで(フリーダイヤル0120・2500・267)

就職支援情報

不透明な社会情勢の中、採用動向は二極化へ

コロナ禍の収束が見えない中、ロシアによるウクライナ侵攻は、資源や原材料価格の高騰に加え、急激な円安など国内外への経済に想定外の危機感を与え、企業心理に影響を落とし始めている。

このような社会情勢の中、2023年春卒業予定者の採用に関するアンケート結果によると「前年並みの応募が多々、現時点では採用への影響は限定的と見える。その一方で、今後の見通しが立たず、当面のあいだ探

用は行わない企業もあり、「二極化が進んでいる。就職環境は、オンライン採用が主流として定着するなど、コロナ禍以前とは大きく異なる新卒採用活動が繰り広げられている。そのメリットは時間、場所、コストの制約が軽減されたことである。これにより、企業は学生との接点を持ちやすくなった。しかし、説明会から内定出しまでの全

形式が用いられることが多い。企業は、対面ではない学生の雰囲気や反応などを、採用選考面接における見極めの一つとしており、その重要性は高まっている。また、学生も職場の雰囲気や仕事内容などについては対面を希望する声も少なくない。

本学で開催した2月と5月の13日間にわたる合同企業説明会(対面形式)への参加企業を中心に、6月に入り、内定出しが佳境に入っている。5月末時点の内定率は5割であり、昨年同時期と比較すると早いペースである。秋以降は、求人活動を

行っている。また、卒業研究に本腰を入れなくてはならないため、春学期に比べ、積極的な活動が難しくなる。内定を得られていない学生にとっては、学内で実施する「個別企業説明



4月に開催された就職支援ガイダンス

会に参加し、選考に臨むことが内定への近道である。さらに、就職支援課の学部担当者やキャリアアドバイザーによる相談も併せて利用してほしい。一人ひとりに寄り添い、進捗度に応じ、自己分析や企業研究、選考対策を行うことで、本選考に自信を持って臨める支援を行っている。夏休み前までに内定を獲得し、就職活動を終えるという強い意志を持ち、最後まで諦めずに臨んでほしい。

NIT Open Campus

3月26日オープンキャンパス 実施報告

来場型の実施内容、定員を昨年度より増加

来場型オープンキャンパスは午前、午後の2部構成で、完全予約制の各回定員320名で実施された。参加者は希望する学部単位で説明を受けたあと、各学科の紹介ブースを巡り、研究室の教員や学生スタッフから研究内容の紹介を受けた。また、希望者には入試や学科選びのための個別相談も行われた。実施にあたっては、消毒や検温など、感染症対策に十分配慮して行われた。また、動画で大学や学科を紹介するWEBオープンキャンパスも開設された。

また、動画で大学や学科を紹介するWEBオープンキャンパスも開設された。



来場型オープンキャンパス実施日程 ※事前予約制。日程は変更になる場合があります

2022 7/16(土) 7/30(土) 31(日) 8/27(土) 28(日) 9/10(土) 2023 3/25(土)



2023大学案内



# 2022年度 科学研究費助成事業内定

4月1日、日本学術振興会より本年度科学研究費助成事業の交付内定が通知され、本学では新規9件、継続31件の研究課題に対し助成交付が内定、もしくは決定された。

本学教員の研究課題は、ものづくりの基盤を支える技術から今後の技術革新に繋がる可能性を秘めたもの、人文社会系統や学習そのものに着目した研究など多岐にわたる。

## 令和4年度（2022年度）科学研究費助成事業 交付決定者・内定者一覧

研究種目	学科	職	研究代表者氏名	継続/新規	採択年度	研究課題
基盤研究(B)	情報メディア工学科	教授	呉本 典	新規	2022	機械学習を用いた古琴譜の識別及びAIによる自動打譜の試み
基盤研究(C)	共通教育学群	准教授	吉田 要	新規	2022	詩が生まれる場所——19世紀女性詩人たちの農業詩学
基盤研究(C)	機械工学科	教授	神 雅彦	新規	2022	超音波振動を応用した微小摩擦の理解および精密リアルタイム摩擦制御に関する研究
基盤研究(C)	機械工学科	准教授	桑原 拓也	新規	2022	水で水をキレイにする燃料電池を用いた低温プラズマ水質浄化装置の高機能化
基盤研究(C)	ロボティクス学科	教授	浦川 禎之	新規	2022	人とロボットの衝突における衝撃力緩和動作制御技術の研究
基盤研究(C)	建築学科	助教	野口 憲治	新規	2022	オランダ商館員がみた近世町家の地域的特質
基盤研究(C)	データサイエンス学科	准教授	松浦 隆文	新規	2022	大規模災害に対する複数ドローンを用いた情報収集経路問題のモデル構築と解法の開発
基盤研究(C)	応用化学科	教授	新倉 謙一	新規	2022	低分子を組み合わせてつくる分解性ナノ粒子の合成とワクチンへの応用
基盤研究(C)	データサイエンス学科	教授	高瀬 浩史	新規	2022	IoT技術を活用したフットマッサージの動作スキル習得支援システムの開発
学術変革領域研究(A)	応用化学科	准教授	小池 隆司	継続	2021	高度プログラム合成光化学
基盤研究(B)	応用化学科	准教授	小池 隆司	継続	2021	小さな芳香環を基盤とする有機光レドックス触媒系の開拓
基盤研究(C)	共通教育学群	准教授	河住 有希子	継続	2021	グローバル化時代における視覚特別支援教育と日本語教育の有機的連携に向けた基盤構築
基盤研究(C)	情報メディア工学科	准教授	加藤 利康	継続	2021	タンジブル教材を用いたプログラミング授業のためのAI分析による支援システムの展開
基盤研究(C)	機械工学科	教授	張 暁友	継続	2021	体内埋込み人工腎臓用1自由度制御型磁気浮上遠心ポンプの研究
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	教授	竹村 暢康	継続	2021	全二重無線通信の空間ダイバーシティと固有ビームフォーミングによる伝送路容量の向上
基盤研究(C)	機械工学科	准教授	加藤 史仁	継続	2021	面内塑性変形パラジウム膜の水素吸蔵反応機構の解明と水素ガスセンサーへの応用
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	助教	大田 健紘	継続	2021	複数センサの融合による発声動作からの発話内容の推定と発声補助デバイスへの応用
基盤研究(C)	データサイエンス学科	准教授	橋浦 弘明	継続	2021	AI技術を活用したセルフレビュー可能なプログラミング学習支援環境の研究
若手研究	共通教育学群	講師	関根 路代	継続	2021	ことばで共同体を紡ぐ——ポエトリー・リーディングの社会的意義に関する研究
若手研究	共通教育学群	准教授	高岡 邦行	継続	2021	ミャンマー人留学生の円滑な数学学習を目指したオンデマンド型eラーニング教材の開発
若手研究	共通教育学群	准教授	山口 剛	継続	2021	学習が成立するまでの過程におけるメタ認知の役割の解明
研究活動スタート支援	データサイエンス学科	准教授	伊藤 暢彦	継続	2021	遠隔映像解析における検出精度と遅延要件を満足する適応的映像品質制御に関する研究
基盤研究(C)	共通教育学群	准教授	梅谷 篤史	継続	2020	ハイパー核の生成・構造・崩壊の拡張殻模型による高精度分析のsd殻領域への展開
基盤研究(C)	機械工学科	教授	村田 泰彦	継続	2020	炭素繊維強化熱可塑性樹脂シートの高熱・冷却ハイブリッド射出成形現象の実験解析
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	教授	吉田 清	継続	2020	直流高電圧のアーク放電遮断に効果的な封入気体とアーク放電抑制機構の解明
基盤研究(C)	データサイエンス学科	教授	吉野 秀明	継続	2020	IoTシステムの過負荷を抑制するLPWAネットワーク輻射制御に関する研究
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	准教授	木許 雅則	継続	2020	屋内でのシームレスな消音を実現する超指向性スピーカを用いた多チャンネルANCの開発
基盤研究(C)	建築学科	准教授	伊藤 大輔	継続	2020	実用化に向けた昼光設計支援のための性能評価マトリックス指標の確立
基盤研究(C)	情報メディア工学科	准教授	神林 靖	継続	2020	移動エージェントを用いた構造物検査のための飛行群ロボット制御の研究
基盤研究(C)	応用化学科	教授	佐野 健一	継続	2020	高い構造異性性を持つ細胞透過性人工タンパク質の細胞透過機構の解明
若手研究	機械工学科	助教	小林 和也	継続(転入)	2020	粉体系と液体系における重力不安定化現象の普遍性解明
基盤研究(B)	データサイエンス学科	教授	荒川 俊也	継続	2019	津波避難時の危険予知意識向上と避難手法の選択に資するKYTシート・アプリの開発
基盤研究(C)	データサイエンス学科	教授	糸野 文洋	継続	2019	社会実装型PBLのリスク分析手法に関する研究
基盤研究(C)	共通教育学群	教授	本村 猛能	継続	2019	国際比較を踏まえた我が国の情報教育カリキュラム体系化と教材提案及び実践研究
基盤研究(C)	電気電子通信工学科	准教授	木村 貴幸	継続	2019	大規模ライドシェアシステムに対する非線形力学系理論を用いた経路制御手法
基盤研究(C)	建築学科	教授	吉野 一	継続	2019	可搬型局所換気装置による介護空間の空気環境改善に関する研究
基盤研究(C)	データサイエンス学科	准教授	松浦 隆文	継続	2019	移動シェア問題に対するニューラルネットワークを用いたオンラインアルゴリズムの開発
基盤研究(C)	情報メディア工学科	教授	勝岡 仁	継続	2019	複数のスマートデバイスを活用した個人適応型学習環境の研究開発
基盤研究(C)	ロボティクス学科	准教授	秋元 俊成	継続	2018	動脈血酸素飽和度の非接触測定の研究
若手研究	共通教育学群	講師	内藤 貴仁	継続	2018	自由ループ空間の有理係数ホモロジーの研究

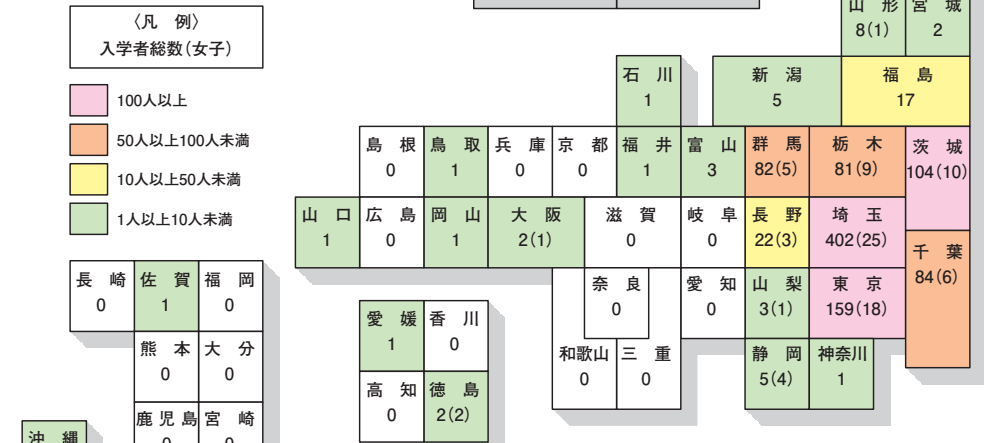
# 新入生の出身地マップ

2022年度都道府県別入学人数がまとまった。総入学人数は1,039名、うち女子学生は90名である。都道府県別入学人数は、昨年に続き埼玉がトップで402名。次いで東京が159名、茨城104名、千葉84名、群馬82名がトップ5。入学者は、全国28都道府県から集まっている。

## 2022年度都道府県別学部入学人数

※( )は女子の数

※編入学生、および秋季入学者の数は含まない



## ●新入留学生の国籍と人数

国籍	人数
中国	21(2)
マレーシア	2
ベトナム	1
韓国	1
計	25(2)



野外ステージで催された音楽団体LIVE

4月9日に学生自治会主催の新入生歓迎イベント「春祭り」が、5号館をメイン会場に開催された。新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況だが、学生交流の貴重なイベントであることを迎えるべく、新入生歓迎を目的として開催された本イベントは、5号館1階の教室を開放して設置された屋外ステージにおいて、音楽団体のライブ、展示や体験型のクイズ紹介などが実施された。

この「春祭り」には委員、体育系・文化系クラブ、サークルのうち、37団体に参加し、大規模なものとなった。新入生歓迎を目的として開催された本イベントは、5号館1階の教室を開放して設置された屋外ステージにおいて、音楽団体のライブ、展示や体験型のクイズ紹介などが実施された。

コロナ禍で厳しい活動制限を余儀なくされていた学生自治会だったが、ただ今「春祭りの成功」は今後の自治会活動に弾みをつけ、更なる発展に期待が持てるイベントとなった。

4月9日に学生自治会主催の新入生歓迎イベント「春祭り」が、5号館をメイン会場に開催された。新型コロナウイルス感染症は予断を許さない状況だが、学生交流の貴重なイベントであることを迎えるべく、新入生歓迎を目的として開催された本イベントは、5号館1階の教室を開放して設置された屋外ステージにおいて、音楽団体のライブ、展示や体験型のクイズ紹介などが実施された。

この「春祭り」には委員、体育系・文化系クラブ、サークルのうち、37団体に参加し、大規模なものとなった。新入生歓迎を目的として開催された本イベントは、5号館1階の教室を開放して設置された屋外ステージにおいて、音楽団体のライブ、展示や体験型のクイズ紹介などが実施された。

なかでも抽選会は、春祭りのフィナーレに相応しい盛り上がりを見せた。来場者数は、当初の予想を大幅に上回る1000名を超え、このうち4月に入学した新入生の参加率は7割以上となった。中央執行委員会の高橋委員長は「初開催となった春祭りに、多くの新入生が足を運んでくれた。これを機に、多くの学生が学生自治会の活動に興味を持ち、一つでも多くの団体に加入して、大学全体を盛り上げてくれることを期待したい」と話してくれた。

コロナ禍で厳しい活動制限を余儀なくされていた学生自治会だったが、ただ今「春祭りの成功」は今後の自治会活動に弾みをつけ、更なる発展に期待が持てるイベントとなった。



学生環境推進委員会による宮代町内河川清掃

2021年度の活動は4つの環境方針のもと、概ね目標を達成した。脱炭素社会への貢献では、温対法における埼玉県条例のCO2排出量削減目標(基準値7450t-CO2/年の22%削減)を大きく上回る33.1%削減を達成。同時に省エネ法の目標値(原単位ベンチマーク0.555kL/m<sup>2</sup>)もクリアした。これは、継続して行っている照明設備の改善(当年度は本館と11号館のLED化)による電力削減効果(▲40%)やコロナ感染防止を主目的とした運用改善による達成されたものである。一方、騒音規制法に関する、空調機

2021年度の活動は4つの環境方針のもと、概ね目標を達成した。脱炭素社会への貢献では、温対法における埼玉県条例のCO2排出量削減目標(基準値7450t-CO2/年の22%削減)を大きく上回る33.1%削減を達成。同時に省エネ法の目標値(原単位ベンチマーク0.555kL/m<sup>2</sup>)もクリアした。これは、継続して行っている照明設備の改善(当年度は本館と11号館のLED化)による電力削減効果(▲40%)やコロナ感染防止を主目的とした運用改善による達成されたものである。一方、騒音規制法に関する、空調機



エコロジープレス

(GHP)の稼働音がタ刻時に規制値を逸脱する事例が有り、対策を検討している。

学生への環境教育と支援においては、学生有志と学生環境推進委員会、本学の学生環境推進委員会と新潟環境ネットワーク(Necone)がリモート交流で取り組んだNSWeek(全国学生清掃週間)は「海洋プラスチック問題」解決に向け清掃活動を行った。いずれも教員の協力による勉強会も兼ね、有意義な活動となった。

この他、次の活動を行った。①SDGs活動補助金による支援②埼玉県デジタルエネルギー管理実証事業支援③地域連携活動支援(広報みやしる取材・近隣農家TV取材)④学生参加・宮代ハロウィンカボチャ評価④備品棚等耐震未対策箇所の総点検と対策(サステイナブルボード外部監査指摘是正)など。

活動の詳細はホームページで紹介している。

# NIT SDGs 新入生対象 リサイクルショップ実施

学生環境推進委員会によるSDG-12(つくる責任・つかう責任)の目標達成に向けた毎年の取り組み。卒業生から不要となった家電や家具を無償回収し、自分達の手で清掃整備を行い展示。希望する新入生に無償配布している。この活動が外部から認められ2016年久喜宮代衛生組合より「ゴミを減らしてきれいな街づくり表彰制度」

最優秀賞を授与された。今年は4月3日～5日、W3棟で実施。約140点を展示し、110点が配送された。



この他、次の活動を行った。①SDGs活動補助金による支援②埼玉県デジタルエネルギー管理実証事業支援③地域連携活動支援(広報みやしる取材・近隣農家TV取材)④学生参加・宮代ハロウィンカボチャ評価④備品棚等耐震未対策箇所の総点検と対策(サステイナブルボード外部監査指摘是正)など。

活動の詳細はホームページで紹介している。



専門職大学院だより

# SDGsの自分ごと化

技術経営研究科・教授 中村 明

世界経済フォーラムが2019年に実施したSDGs認知度調査において、「SDGsを少しでも聞いたことがある」と回答した日本人はわずか49%で、調査対象となった28か国の平均74%を大きく下回り最下位であった。1位はトルコの92%となっている。SDGsの認知度は国内でも徐々に広がっているが、まだまだ社会の中に十分浸透してはいない。筆者は今までも、中等・高等教育、企業でSDGsの普及のための講演などに関わり、専

門職大学院の講義でも経営を考える上での必須の要素としてSDGsの実践化に取り組んでいる。様々な世代とSDGsに向き合う中で感じるのは、「SDGsのために何をすべきか」と大段に構えるとなかなか進まないという点だ。まずは「現在の自分の仕事や生活とSDGsがどのように関係するのかわかるように、つまり自分ごと化してみる」ことから始めたい。ネット世代は最初のきっかけさえあれば、

の視点より現在の活動を社員参加型でレビューしてみるという点に気がつくのではないかとと思う。B2B企業の場合、自社の提供したものが最終的にどのように使われるかをイメージすると良い。つなかりを洗い出したら、その上でもう一度SDGsに掲げられる項目や目標の水準に照らし、現在の活動を具体的にどのよう工夫・改善すれば良いのかを考えてみる。そういった手順を踏むことによりSDGsへの抵抗感は軽減され、進展していくのではないかとと思う。

SDGsが記載される国際社会の合意文書である。持続可能な開発のための2030アジェンダでは、「誰一人取り残さず(No one will be left behind)」が理念として掲げられる。そのため、SDGsは、経済面、社会面、環境面の広範にわたる課題を網羅し、かつあらゆる人のあらゆる課題につながるような内容になっている。人間の尊厳・権利、地球、繁栄、平和を実現していくための行動計画であり王道はない。企業や個人が身近なところから取り組むこと(自分ごと化)に取り組むことは、企業価値の向上や個人のエンゲージメントにもつながる。小さくても全世界参加型で地道な取り組みを蓄積していくことが必ず持続可能な未来につながるはずである。

## 高校生対象のコンテストを実施します

### NITプロダクトデザインコンテスト2022

#### 自由な発想のプロダクトデザインを募集

今年度も高校生を対象としたデザイン提案のコンテストを開催する。提案書で審査するオリジナルアイデア部門・自由部門の他に、CADデータを審査する3Dモデリング部門、3Dプリンターの出力物で審査する3Dプリンタ造形部門の4部門である。参加登録は8月22日まで。



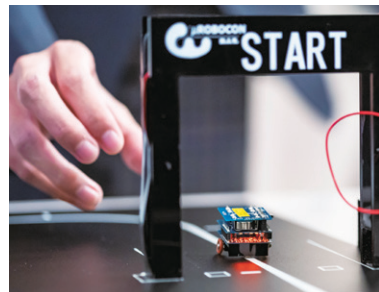
昨年の3Dモデリング部門優秀賞作品

<https://www.nit.ac.jp/department/machine/nitpd>

### 第16回 マイクロボコン高校生大会

#### 今年は2年ぶりに本学会場で開催予定

第16回大会は12月10日に本学にて開催を予定。本大会は1インチ角の小さなロボットを作製し、自律的にコースを走行、タイムを競う大会である。現在、遠隔での開催も視野に入れながら、準備を行っている。9月頃には本学会場での開催か遠隔での開催にするかの判断を行う予定。



白線で描かれたコースを走り、1周のタイムで競う

<http://ise.nit.ac.jp/ise/mrc.html>

### 第36回 建築設計競技

#### その土地に 開いて／閉じる ワンルーム

建築を学ぶ高校生を対象とした建築設計競技。今年は、家族で共有する大きなワンルーム空間の家を募集する。審査は建築家の安田幸一氏、本学建築学部の小川次郎教授、吉村英孝准教授が担当する。提出期限は8月31日。審査結果は9月中旬、下記ウェブサイトにて発表される。



入賞作品はLCセンターに展示される

<http://nit-kenchiku.jp/activities/>

## 教育改革シンポジウム開催報告

### 第67回 個人情報保護法の基本と令和2年改正法

デジタル化社会は、私たちの生活の利便性を向上させるとともに、業務に携わる立場として効率化をもたらすものである。一方で、個人情報取扱事

業者の立場からは、これまで以上に、個人情報の保護と利活用のバランスが求められる。個人情報保護法は、デジタル化の進展や、国際的な動向を踏まえて、3年に1度見直されることとされており、令和4年4月には改正法が全面施行となった。

### 第68回 彩の国連携力育成プロジェクトの概要と学生の学び

総勢151名を集めて3月17日に開催されたシンポジウムのテーマであった「彩の国連携力育成事業プロジェクト(SAIPPE)」とは、本学と埼玉県立大学、埼玉医

科大学、城西大学、そして、続いて個人情報の5つのポイントである①取得、②利用、③保管、④提供、⑤開示等のそれぞれにおける規制や、事業主の義務について、強化された点や注意すべき点などを中心に解説された。

特に、学校法人として個人データの漏えい等の防止に努め、安全管理のために必要かつ適切な措置を講じる重要性などに

ついて認識を深めた。最後に、今一度個人情報保護法の5つの義務を確認し、講演会は終了した。

今回の法改正を踏まえ、個人情報保護を適切に取り扱うよう努めたい。



講師の影島氏

本講演会は3月1日(令和3年度)令和3年度学校法人日本工業大学研修プロ

総勢151名を集めて3月17日に開催されたシンポジウムのテーマであった「彩の国連携力育成事業プロジェクト(SAIPPE)」とは、本学と埼玉県立大学、埼玉医

科大学、城西大学、そして、続いて個人情報の5つのポイントである①取得、②利用、③保管、④提供、⑤開示等のそれぞれにおける規制や、事業主の義務について、強化された点や注意すべき点などを中心に解説された。

特に、学校法人として個人データの漏えい等の防止に努め、安全管理のために必要かつ適切な措置を講じる重要性などに

ついて認識を深めた。最後に、今一度個人情報保護法の5つの義務を確認し、講演会は終了した。

今回の法改正を踏まえ、個人情報保護を適切に取り扱うよう努めたい。

今回のシンポジウムではまず、埼玉医科大学・医学教育センターの金田光平先生が、この9年間のSAIPPEの活動全体の概要を説明し、続いて本学の勝木准教授が、建築学科生活環境デザインコースで具体的に展開されている科目についての紹介を行った。

その後は、このカリキュラムの修了生である、1科卒業生の牧野なな子さんと三上莉穂さんと、現役学生を代表して小島瑞紀さんと須藤優斗さんの4名から、自らの体験談や現在の仕事や現在の仕事や現在の仕事

この活動を本学内で主導する勝木准教授らのグループは、宮代町や同町社会福祉協議会などの定期的な会合を重ねてきた。この協議により「地元住民も含めた皆で専門家から話を聞いて、各々が意見を述べ合う機会が必要だ」との結論を得て、開催に至ったものである。

「認知症フレンドリー社会」をテーマとした徳田氏はNHK在籍時に医療・介護関連の番組を手がけた。認知症の当事者・家族として、どんな点に困難を感じているか、などを参加者同士で語りあった。

後半の交流会では、グループワークの形式を取り、「健常者として認知症フレンドリー社会に向けて自分は何ができるか」「認知症の当事者・家族として、どんな点に困難を感じているか」などを参加者同士で語りあった。



勝木准教授は授業での取り組みを紹介

その後は、このカリキュラムの修了生である、1科卒業生の牧野なな子さんと三上莉穂さんと、現役学生を代表して小島瑞紀さんと須藤優斗さんの4名から、自らの体験談や現在の仕事や現在の仕事

この活動を本学内で主導する勝木准教授らのグループは、宮代町や同町社会福祉協議会などの定期的な会合を重ねてきた。この協議により「地元住民も含めた皆で専門家から話を聞いて、各々が意見を述べ合う機会が必要だ」との結論を得て、開催に至ったものである。

「認知症フレンドリー社会」をテーマとした徳田氏はNHK在籍時に医療・介護関連の番組を手がけた。認知症の当事者・家族として、どんな点に困難を感じているか、などを参加者同士で語りあった。

後半の交流会では、グループワークの形式を取り、「健常者として認知症フレンドリー社会に向けて自分は何ができるか」「認知症の当事者・家族として、どんな点に困難を感じているか」などを参加者同士で語りあった。

後半の交流会では、グループワークの形式を取り、「健常者として認知症フレンドリー社会に向けて自分は何ができるか」「認知症の当事者・家族として、どんな点に困難を感じているか」などを参加者同士で語りあった。

後半の交流会では、グループワークの形式を取り、「健常者として認知症フレンドリー社会に向けて自分は何ができるか」「認知症の当事者・家族として、どんな点に困難を感じているか」などを参加者同士で語りあった。

### 本学の研究室を紹介するTV番組

## みらいウォッチ2022

7月10日(日)スタート/全24回  
テレビ埼玉 毎週日曜日16:55~17:00



清水 博幸 准教授



※受賞記事は受賞時の学年(2021年度)で表記しています

### まちづくりのコンペ 最優秀賞



受賞作品の模型

2月19日、さいたま市主催「マチミチコンペin大宮ウォーカーカブリング」のモデルプロジェクト部門最終審査において、建築学科有志チームの提案「心も体も満たされる、ウェルビーイングな大宮マチミチ」が最優秀賞を受賞した。共同

提案者は同学科の小川次郎教授、木下芳郎教授、土佐谷勇太さん(卒業生)で、両研究室の学生も協力した。

コンペのテーマは「大宮らしさ」を活かした、人中心で居心地が良く歩きたくなるウォーカーフレンドリーなまちづくり。提案では、歩きやすくなる動機づけとして「個を高める」(人と交わる)という2つの目的をもつ拠点エリアを設定し、アイデアを具体的に展開した点が評価された。今後、さいたま市などとともに提案の実現に向け活動を続けていく。

### 日本塑性加工学会 学生奨励賞



齋藤さんは受賞の喜びとともに、今後は一技術者として精進していくと抱負を述べている。

機械システム工学専攻博士前期課程2年(瀧澤研究室)の齋藤佑太さんが3月3日、日本塑性加工学会の「学生奨励賞」を受賞した。受賞研究名は「アルミニウム合金の降伏曲面測定および降伏関数選択指針の検討」。

本研究では、アルミニウム合金板の二軸心力状態における降伏条件の新しい評価法を開発し、降伏関数選択指針の検討を行った。本研究会は日本塑性加工学会の2021年度塑性加工春季講演会「優秀論文講演奨励賞」、同学会関東3支部新進部会「優秀ポスター発表賞」も受賞している。

### 電気学会東京支部 優秀論文発表賞・学術奨励賞



〈左〉笠原さん 〈右〉川島さん

電子情報メディア工学専攻、電気電子通信工学科の学生が3月、電気学会の各賞を受賞した。■第25回東京支部埼玉支所研究発表会優秀論文発表賞(2名)

電子情報メディア工学専攻2年(上野研究室)の川島優樹さんの受賞論文題目は「銅スリップリングと銀黒鉛質ブラシの銀含有率変化に対するブラシ摩耗形態の相違」。

### 電気学会東京支部 学術奨励賞



〈左〉畑さん 〈右〉遠藤さん

の長寿命化、低コスト化、メンテナンスの軽減などが期待される。

電気電子通信工学科4年(木許研究室)笠原瑛甫さんの受賞論文題目は「ステレオ音声データの改ざん検知に対する振幅変化に基づく電子透かし埋め込み手法」。

電気電子通信工学科4年(平栗研究室)の遠藤啓太さんはスマート農業に関する研究開発として「ドローンを用いた上空からの圃場(田畑)撮影によるAI画像解析」に取り組んでいる。ドローンは予めプログラムされた経路を飛行し、高性能なカメラを用いて圃場を自動的に撮影するよう開発、撮影画像は、AI解析によって栽培状況を高精度に分析する。遠隔で圃場の生育状況管理が容易になるため、農業のあり方を一変させる可能性がある。本研究は理論上、計算上の研究だけでなく、ドローンの飛行制御や圃場画像のAI解析を実際に行った結果に対し、近い将来に実現可能な技術として表彰を受けている。

### 町代より 宮代 236号

このようになります。ネット通販、SNSで知り合った人にマルチ取引や儲け話の勧誘を受ける...こうした消費者トラブルでお困りのことがあれば相談してください。

◆宮代町消費生活センター  
【相談日】祝日を除く月曜・水曜 最終受付15時 0480341111内線524

### 情報処理学会 学生奨励賞

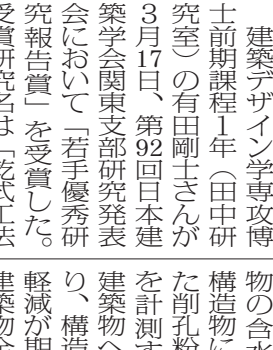


村田さん

1つであるデバッグに着目。プログラムの実行履歴(トレース)と自動会話プログラム「チャットボット」を組み合わせた技術を開発した。ソフトウェ

情報メディア工学科4年(橋浦研究室)の村田匠さん、中山冬野さんが3月5日、情報処理学会の第84回全国大会において「学生奨励賞」を受賞した。受賞テーマは「チャットボットを利用したJavaプログラムのデバッグ支援手法」。本研究では、ソフトウェアの欠陥除去作業の

### 日本建築学会 若手優秀研究報告賞



物の含水率測定のため、構造物に穴を開け、生じた削孔粉を用いて含水率を計測する方法を検討。建築物への損傷減少により、構造耐力面でも負担軽減が期待できる。今後、建築物全体の健全性を含水率視点で評価することへの使用が期待される。

建築デザイン学専攻博士前期課程1年(田中研究室)の有田剛士さんが3月17日、第92回日本建築学会関東支部研究発表会において「若手優秀研究報告賞」を受賞した。受賞研究名は「乾式工法を用いたコンクリートの含水率測定方法及びその鉄筋コンクリート構造への使用が期待される」。

## 新任教員紹介 (2022年度4月着任)

### はじめまして、4月に着任しました。

機械工学科

近藤 篤史

准教授



愛知工科大学から異動してきました。複合材料の性質をシミュレーションする研究をしています。炭素繊維で強化したCFRPによる軽くて強い構造、炭素の微粒子を添加した熱伝導性樹脂による電子機器の効率的な放熱など、複数の材料を組み合わせることによって、一つの材料には無い特性、機能が実現できます。一緒に面白い事を発見していきましょう。

機械工学科

小林 和也

助教



私はソフトウェアと呼ばれる柔らかい物質を取り扱う研究室で学生生活を送りました。その後、東京農工大学大学院流体工学研究室にて特任助教を務め、この度、日本工業大学機械工学科に着任いたしました。日本工業大学の恵まれた教育研究環境のもと、これまでの経験を活かして、日本の将来を担う技術者の育成に全力を持って取り組む所存です。

共通教育学群

中村 耀

講師



本学では工学基礎物理実験と物理のクォーター科目を担当しています。専門はプラズマ理工学で、プラズマの荷電粒子源として利用する研究、特に気体を通過させないで、荷電粒子のみ通過させる窓としてプラズマを利用するプラズマウィンドウという技術に関する実験系の研究をしています。学生の皆さんの学びのサポートが出来るよう、誠心誠意努めて参ります。

産学連携起業教育センター

芝 佑樹

講師



地球規模の激変が起きるなか、国にかわり、企業やNGOなど多様な組織が商品やサービスをを通じて新たな未来を提案する時代が来ています。多様な年齢、背景の人々に向き合ってきた教育経験と国際経験を活かし、授業を行ってまいります。皆さんの専門の勉強を社会の理解や問題解決と結びつけ、小さなところからボジティブな変化を共に創り出していきましょう。

### 名誉理事長

## 大川陽康先生ご逝去

学校法人日本工業大学名誉理事長・大川陽康先生が令和4年4月10日に永眠されました。

先生は、日本工業大学の創設と同時に教務部長・機械工学科の教授として大学に就任され、その後、昭和62年12月に学長となり、今日の日本工業大学の隆盛へ尽力されてこられた。謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。



### 栄養満点で おいしい朝食を 100円で提供

学生の健康増進、生活習慣の改善を目的として、4月12日より学食(アルテリーベ)において100円朝食の提供を開始した。本学園の寄付金制度「みらい募金」が原資。1日あたり60食限定だが、毎日完売するほどの盛況ぶり、学生に大変好評だ。

